



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692 (住所記入不要)
☎ 0276-88-5111 (代表)
☎ 0276-47-5007 (企画課直通)
☎ 0276-89-0136
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第四十二回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



T字路脇の小さなほこらに祭られている天王様。(写真左)
その隣にあるのが阿夫利神社の灯籠 (写真右)

天王様

一本木の集落の中央に小さなほこらがあります。天王様です。昔は横三間・奥行き一間半の建物があつて半分に天王様を祭り、後半分を消防ポンプ小屋に充てていました(一間は約1.8m)。

その頃、夏の天王様のお祭りの日には世良田(太田市世良田町)から天王様を借りてきました。

運搬は大八車を人力で引き、歩きでした。後にリヤカーが普及してからは自転車でリヤカーを引いて運びました。

荷物の箱の中には、木彫りの獅子頭が収められていました。借りてきた獅子頭は、午前は藤川の本村で使用し、午後は一本木で使用しました。これは毎年交互に使用する習わしでした。

いよいよ獅子頭のお出ましです。祭りの人がこれを担いで、一軒一軒玄関から入って奥座敷まで行き、悪魔払いのしぐさをします。終わるとそのまま外に出ます。祭り番は、早く各戸を回りたいと懸命です。

ところが若い衆がこれを取りにかかります。若い衆はワッショイワッショイ勢いよく暴れます。やがて頃合いを見て祭り番がまた、これを取って家々を回ります。一時は祭り番と若い衆の奪い合いと

なります。

最後は祭り番が責任をもって終夜、獅子頭をお守りします。

こうして祭りが済むと、翌日は早速世良田に返しに行きます。村人は酒を飲み、ごちそうを食べて、一日中祭り気分になります。

しかし、村にとって一大行事のこの祭りも戦争で中断、やがて終戦。世相の変化に伴い村祭りも止んでしまいました。

たまたま道路拡張で建物を取り払われなくなり、石造りの天王様を四祀開神社境内にお預けしました。

それから何年かして、一本木に病人が多発しました。村人たちは「これは天王様が帰りがついているからだろう」と言い始めました。そこで再び一本木に小さなほこらを建て、お帰りを願うことになりました。

現在は年に一度、祭り番が集まって、赤飯と酒肴を用意し、神主にお願いで村中の無病息災を祈願してもらい、お祝いをしています。

時代の流れとともに古い祭りは消えていきますが、まだ形だけでも残っているのはよしとしなければならぬのです。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



黄金色の朝
(鶴新田内)

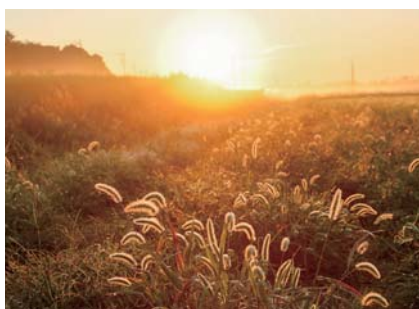


Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶朝晩の空気が凛と冷たく、布団から出にくい季節となりました。明け方に窓を開けると、吐く息が白く染まり、冬が近づいているのを感じます。▶少し前までは若緑色が広がっていた田んぼも、今は稲が刈り取られてさっぱりとした姿になりました。▶この時期、食べたくなるのはやっぱり新米。私はおむすびにして食べるのが好きです。ほかほかご飯に、梅干し、醤油おかか、秋鮭などの具を入れたり、さつまいもや栗、きのこなどを炊き込んだもので作ったり、かわいい形にしてみたり。作るのは簡単ですが、奥の深い料理です。出来たてを食べるもよし、それを持って紅葉狩りに出かけるもよし。美りの秋を楽しみたいですね。(栗原)



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。



この広報誌は、東日本大震災で被災した三菱
製紙のニューVマット紙を使用しています。